

第1章 基本計画の策定にあたって

■基本計画策定の趣旨と位置づけ

現在の市体育センター及び武道館は、建設から約50年が経過しており、老朽化に加え、耐震性にも課題があることから、利用者の安全性の確保が急務となっています。このため市では、令和元年7月に「日向市総合体育館整備市民検討委員会」を設置し、コンセプトや規模、場所、機能などについて、様々な視点から検討を進め、令和元年11月に「日向市総合体育館整備基本構想」を策定しました。また、令和2年度に「PFI等導入可能性調査」を実施し、総合体育館整備における民間活力の導入について検討し、令和3年7月には市民アンケート調査を実施し、改めて基本構想に関する市民の皆さんへの周知と建設の場所や施設の規模に対するご意見をお伺いし、市民ニーズの把握、分析に努めたところです。このような状況を踏まえ、この「日向市総合体育館整備基本計画」は、基本構想で示した総合体育館整備についての基本的な方針を継承し、今後の事業化に向け、諸機能、規模、事業手法などの基本的な内容を示すものです。

■基本コンセプト

総合体育館は、将来にわたって、子どもから高齢者まで広くスポーツや健康づくりに親しむことができる拠点施設として、今後求められる機能や役割を踏まえ、多くの市民に愛される体育館を目指し、基本構想では、キャッチフレーズ、基本コンセプトを定めました。その後、日向市と宮崎県立日向高等学校との包括連携協定に伴う課題型学習（令和元年度～2年度）において、「わたしのまちの体育館」をテーマに、総合体育館整備における課題や望ましい機能について調査研究を行いました。その結果、スポーツをする機会が少ないと思われる子育て世代やスポーツをされない方なども、魅力的で気軽に利用できる体育館を目指し、市民の誰もが安心して楽しく利用できる憩いの場としての活用を図ります。

★総合体育館のキャッチフレーズ
～未来へ向かい あふれる笑顔で多世代がつながる
海と緑に囲まれた“健康長寿・スポーツ推進”拠点～

基本コンセプト

市民の誰もが日常的にスポーツ活動、健康づくりに親しみ、利用できる体育館

- 屋内スポーツ施設の拠点として健康増進や生きがいづくり、競技力向上など、日常的なスポーツ活動の場として活用
- レクリエーションやスポーツクラブ等スポーツへの関わり場の場として活用
- 健康・体力づくりに励む市民同士の交流拠点として活用
- 市民の誰もが、多世代にわたって、魅力的で気軽に利用できる憩いの場として活用

様々なスポーツ大会が開催され、スポーツ交流やイベントの拠点となる体育館

- 既存施設では開催できなかった地区大会や県大会、またはそれ以上の大規模な大会の会場として活用
- スポーツ交流の場、スポーツ推進イベントの場として活用
- スポーツに限定しない各種イベントや集会の開催場所として活用

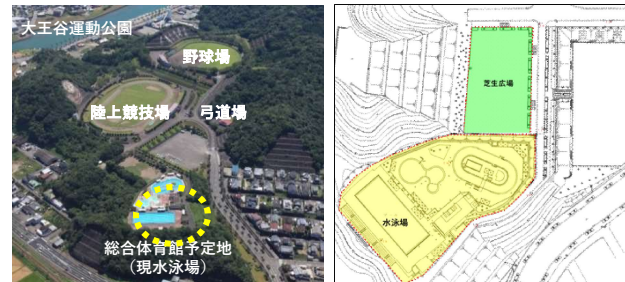
災害時の拠点施設となる体育館

- 緊急支援物資の保管場所として利用
- 長期避難所としての活用
- 隣接する施設との複合的な活用

第2章 計画条件の整理

■建設用地と敷地概要

総合体育館は、基本構想に基づき、大王谷運動公園水泳場の敷地を建設用地とします。対象用地の大王谷運動公園は、市の北部に位置する都市公園で、接続する国道10号沿道及び高台においては、商業施設や診療所の立地による土地利用が行われています。大王谷運動公園の周辺には住宅地が集中しており、公共施設や児童福祉施設が立地するほか、自然環境と住環境の調和のとれた地域が形成されています。用途地域は第1種中層住居専用地域に指定されており、建ぺい率60%、容積率200%となっています。



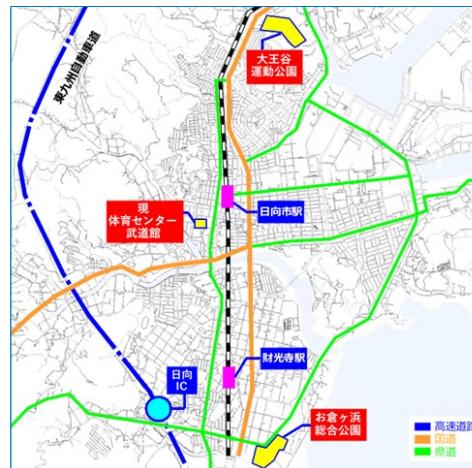
■建設用地

■周辺の状況と交通アクセス

建設用地の大王谷運動公園は、本市の北部に位置し、公園の南部や西部に住宅地が広がっているほか、本市の主要幹線道路である国道10号と接続しており、利用者のほとんどは、車で来場となっています。自家用車以外で訪れる利用者の公共交通機関としては、ぶらっとバスや路線バスがありますが、便数が限られていることや施設へ直接乗り入れていないことから、公共交通機関等を活用したアクセスについても検討し、利便性の向上を図ります。

【交通アクセス】

- ＪＲ日向市駅より、約3.1km（車約5分、自転車約10分、徒歩約30分）
- 東九州自動車道日向ICより、約6.3km（車約10分）
- 路線バス「丸山バス停」より約300m
ぶらっとバス「大王谷運動公園前」バス停より100m



第3章 整備方針

■必要諸室等の内容

施設の規模及び整備方針の検討に当たり、市民検討委員会、市民アンケート調査、各競技団体へのヒアリング、基本構想との整合性の確認などを行い、必要諸室等の内容、想定面積や施設全体への配慮事項等を設定しました。

(1) 競技機能

①アリーナ

バスケットコート2面又はバレーボール3面の広さを想定し、面積は、約1,800㎡（47m×38m）で、天井高は、13m程度。各種地区大会等の会場、パラスポーツにも活用できるよう、床材等に配慮する。

②武道場（柔道場、剣道場）

柔道場1面、剣道場1面を設置。畳は1面分を固定、その他はフレキシブルに利用可能な施設とする。床は弾力性のあるフローリング使用とする。

③倉庫（器具倉庫含む）

④空調設備

熱中症対策など利用者の安全に考慮し、バドミントンなどの競技の実施にも配慮した空調設備を設置。

⑤ステージ

(2) 観覧機能

①観客席

固定席500席程度とし、車いす利用者の専用スペースを設けるとともに、観戦する全ての人に優しい施設として段差や傾斜は緩やかなものとする。

(3) 管理・サービス機能

①更衣室（ロッカー）、シャワー室、トイレ

障がいのある人や高齢者、乳幼児連れの人などに配慮した誰もが安全で使いやすい更衣室、シャワー室、トイレを設置。

②会議室・控室

③エレベーター

ユニバーサルデザインに配慮した広めのエレベーターを設置。

④エントランスホール、ロビー、通路等

⑤事務室・放送室・救護室

(4) 健康増進、交流機能

①多目的室

各種ダンスや健康体操等へ対応できるよう、可動間仕切り、鏡を設置。

②ウォーキング・ランニングコース

観客席の後方に周回可能なウォーキングコース・ランニングコースを整備。

③トレーニング室

トレーニング機器の設置やストレッチ運動が可能なスペースを設置。

④交流室（キッズルーム）、授乳室

利用者の休憩場所や、キッズルーム、託児室としての機能を持ち、幼児を持つ保護者のスポーツ活動を支援するスペースとして設置。

(5) 災害時の拠点機能

①備蓄倉庫、非常用電源設備、非常用給水設備、緊急時排水貯留槽の整備

(6) その他の機能

①無線LAN等のICT整備

フリーwifi、web予約システム、キャッシュレス決済等の導入。

■ 想定延床面積

導入機能	設 備	想定 延床面積 (㎡)
1 競技機能	アリーナ	2,700
	武道場	
	倉庫（器具倉庫含む）	
2 観覧機能	観客席（2階：固定席500席程度）	300
	更衣室、シャワー室、トイレ	
	会議室（控室）	
	エントランスホール、ロビー	
3 管理・サービス機能	事務室、放送室、救護室	1,000
	多目的室（軽スポーツ、ダンス等）	
	ウォーキング・ランニングコース	
	トレーニング室	
4 健康増進、交流機能	交流室（キッズルーム）、授乳室	1,100
5 災害時の拠点機能	備蓄倉庫	100
6 機械室等	機械室等	200
7 その他	廊下・通路等	1,100
計		6,500

■ 施設整備において配慮すべき事項

(1) ユニバーサルデザインの推進

誰もが安心して利用しやすい施設として、ユニバーサルデザインに配慮した施設とします。

(2) 障がい者スポーツ等への配慮

障がい者スポーツの実施に配慮し、更衣室、シャワー室、トイレ等、障がい者等が利用しやすい施設環境を整えます。

(3) アクセスへの配慮

ぶらっとバスを大王谷運動公園内へ乗り入れるものとし、利便性の向上を図ります。

(4) 環境共生・ライフサイクルコストへの配慮

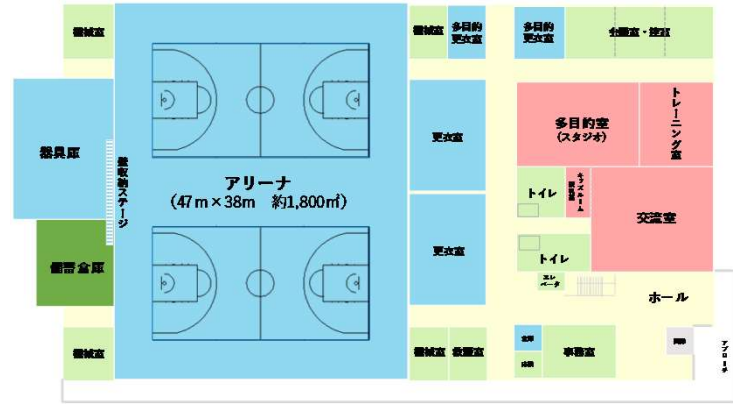
省エネルギーを考慮した信頼性の高い設備を計画するとともに、メンテナンスのしやすさや施設の長寿命化に配慮し、ライフサイクルコストの低減を図ります。

(5) 水泳場、芝生広場の代替措置への配慮

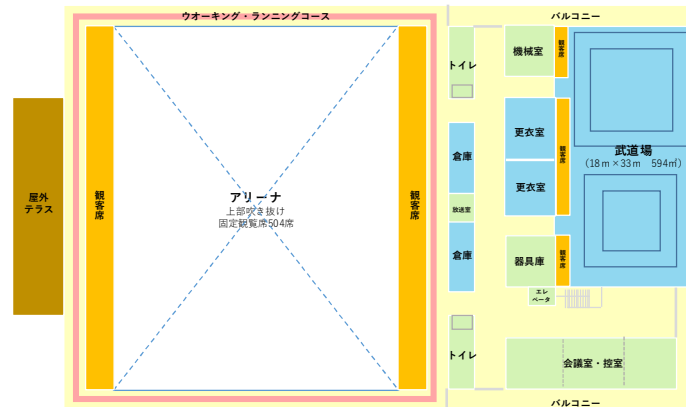
水泳場が廃止されることから、小学校の夏休み期間中に一部の学校プールを開放します。芝生広場を主に利用されているグラウンドゴルフについては、今後、近隣の公園等の活用を検討します。

(6) 防災拠点施設としての配慮

災害時には、備蓄スペースや中長期避難所としての活用など、高齢者や障がい者など特別な配慮が必要となる方々にとっても良好な避難環境を提供できる「災害に強く、市民が安心して利用できる施設」として整備します。



■ 1階平面図 (案)



■ 2階平面図 (案)

■ 概算事業費

直近の体育館建設事例を参考に、建設単価を55万円/㎡（税込）と想定し、想定延床面積から試算すると、建物本体工事費が約35億円（税込）、その他の経費を加味すると、現段階での概算事業費は約42億円と見込まれます。詳細な建設事業費については、今後の財政状況等を踏まえながら、市が求める機能や品質を確保するとともに、維持管理運営費も含めたトータルコストの縮減も含め、基本設計・実施設計の中で、具体的な検討を行っていきます。

■ 財源

国の交付金（社会資本整備総合交付金、防災安全交付金等）、借入金（公共事業等債等）、助成金（スポーツ振興くじ助成金等）及び市が負担する一般財源での対応を想定しています。このほか、他の交付金や企業版ふるさと納税、ネーミングライツ等の活用により、一般財源の負担軽減に努めます。

第4章 事業手法

事業手法については、平成30年度に策定した「公共施設等におけるP P P / P F I 導入ガイドライン」を踏まえ、市民サービスの向上やコスト縮減を図るため、民間事業者の経営ノウハウや資金を活用するP P P / P F I ※方式の導入を基本的な考え方とし、令和2年度にP F I 等導入可能性調査を実施した結果、本事業の事業手法は、「DB+O（Design Build +Operate）」手法（設計・建設を一括発注し、維持管理・運営は別途発注）とします。

※ P P P (Public Private Partnership) P F I (Private Finance Initiative)

項目	内容
事業手法	DB+O（設計・施工一括発注）
整備内容	総合体育館及び外構・駐車場の整備
維持管理対象	総合体育館を含む大王谷運動公園及びお倉ヶ浜総合公園
事業期間	設計・施工期間3か年 運営期間5か年

第5章 維持管理・運営方針

■ 維持管理方針

利用者の安全・安心の確保の視点から、適切な点検や修繕・維持補修を行うとともに、総合体育館の維持管理と合わせ、大王谷運動公園全体及びお倉ヶ浜総合公園の維持管理を行うことで、業務の効率化を図るとともに、施設・設備の保守点検、警備、衛生管理、植栽管理等の徹底を図ります。

1. 安全で安心して利用できる施設管理
2. 災害時の拠点施設となる施設管理
3. 持続可能な施設管理

■ 運営方針

子どもから高齢者、障がい者の方まで、スポーツをする機会が少ないと思われる子育て世代やスポーツをされない方なども、広くスポーツや健康づくりに親しむことができるよう、利用者ニーズの把握やサービスの向上に努めながら、魅力的で気軽に利用できる体育館づくりを目指します。

1. すべての市民が身近に感じる施設運営
2. スポーツ交流やイベントの拠点となる施設運営
3. 安心して利用できる施設運営
4. 災害時の拠点施設となる施設運営
5. 持続可能な施設運営

第6章 整備スケジュール

